

靈層界

靈界の構成は曩に述べた如く、天国、中有、地獄の三段階が三分されて九段階となっており、一段は又二十に分れ、一段階二三が六十段となり、三六十八即ち総計百八十段となる。私は名づけて靈層界といふ。その上宇宙の主宰者たる主神が坐するのである。主神の主の字は一二三本の横線を縦の棒一本を通し、上に、が載つてゐる事は面白いと思ふ。そうして人間と靈の關係を詳しく説明してみるが、人間の肉体そのままの形体である精靈があり、その中心に心があり、心の中心に魂があるといふ具合に、大中小の三段否三重となつてゐるが、その魂こそ神から与えられたるもので、これが良心そのものである。此魂の故郷即ち本籍地ともいふべき根源が、右の百八十段階の何れかに属しており、之を名付けて私は幽魂といふ。此幽魂と人間の現魂とは靈線によって繋がれており、絶えず人間の思想行動は幽魂に伝達され、それが神に通じており、又神よりの命令は幽魂を経、靈線を通じて人間に伝達さるゝのである。此例として

人間が種々の企図計画をなし、目的を達成せんと努力するも事志と違ひ、思はぬ方向に赴いたり、意外な運命に突当たりする場合、熟々顧る時、何等か自分に対し見えざる支配者があつて、自分を操つてゐるように想はれる事を大抵の人は経験するであらう。即ち此支配者なるものが右の幽魂から伝達さるゝ神の意志である。故に神意に反する場合何程努力すると雖も、努力すればする程逆効果になるものであるから、人間は常に自己の考えが神意に合致するや否やを深く省察しなければならぬ。然し乍ら此場合私欲邪念があるとすれば、それは神意の伝達を妨害する事になるから、一時は良いように見えても、終には必ず失敗するものである。此理によつて何等かの計画を立てる場合、よくよく自己を省み、その目的が善であるか、社会人類に役立つべきものなるや否やを深く検討しなければならぬ。茲で面白い事は、邪念の爲神意に添はず爲に失敗苦境に陥る場合、その苦難によつて、邪念の原因である罪穢が滅減する事になるから、其爲魂が磨かれる結果となり、今度は神意と合致するよ

うになり、成功する事になる。世間よく一度失敗し其後成功する例がよくある事や、特に失敗の度数の多い程大成功者となる例があるが、右の理に由るのである。

以上の如くであるから靈層界のより上段に靈魂の籍をおく事が幸運者たり得る唯一の方法である。元來靈魂の位置は一定してはゐないもので常に昇降してゐる。何故かといふと軽い程上方に昇り、重い程下向するのであつて、此輕重の原因は如何なる訳かといふと、人間の行為の善惡に因るもので、善事を行ひ徳行を重ねれば罪穢が減少するから軽くなり、惡事を行ひ罪を重ねれば罪穢が増すから重くなるといふ訳で、昔から罪の重荷とはよく言つたものである。故に善惡の心言行そのまゝが靈線によつて神へ直通するのであるから、此理を知つたならどうしても善徳者にならざるを得ないのである。前述の如く人間は神の命によつて、運命は疎か生死までも決定するのであるから、人間の生命の命の字は命令の命の字である。故に死とは神よりの命令解除である。それは世の中に害毒を与えたり生存

の価値なき為であるから、人間は命令を解除されぬよう神に愛され社会有用なる人間にならなければ、長寿と幸福は得られる筈がないのである。

靈層界の上位へ行く程病貧争の如き苦はなく、澆刺たる健康と、饒かであり善美である衣食住を与えられ、歡喜の生活を営まれるから、そこにゐる幽魂の幸福は、靈線によって現界の人間に直通し幸福になるのである。その反対に靈層界の低位にある幽魂は、靈通によつて其人間に反映し、常に地獄的生活に喘ぎつつ一生不幸に畢るのである。

世間よく家相方位などに関心を持つ者があるが、靈層界の上位に在る者は、移転や建築等をなす場合、自然良方位、良家相に移住する事になり、反対に靈層界の低位にある者は如何に努力すると雖も、悪方位悪家相に移住する事になるのである。又結婚の場合、良縁も悪縁も右と同様の理によるのであつて、之は靈体一致の原則による以上、此絶対力は如何なる人間と雖も抗する事は不可能である。

茲で宿命と運命に就て一言するが、宿命とは生れ乍らに決定せるもので、それは靈層界の上中下三段の何れかの一段の圈内に限定され、それ以外に出づる事は不可能であるが、運命は右の宿命圈内の最上位に行くも最下位に行くも努力次第であるから、宿命の不変であるに對し、運命は或程度の自由を得られるのである。

随而人間は常に善徳を積み、罪穢を軽減し靈層界のより上位に吾が幽魂を住せしむべきで、それによる以外幸福者たり得る道は決してない事を知るべきである。

（自叢 昭和二十四年八月二十五日）